

財団法人 日本クリスチャンアカデミー機関誌

はなしあい

2011年1・2月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュペネマン クラウス

発行所

日本クリスチャンアカデミー
東京都新宿区西早稲田2-3-18
03(3207)6198
振替口座 01020-1-5184

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

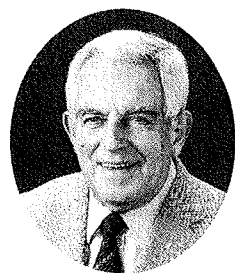
第521号

運動が始まってから、アカデミーのプログラムが金曜日の西ヨーロッパでアカデミー

第2次大戦直後、西ヨーロッパでアカデミー運動が始まった時、出会いと対話を可能にするために、都会から離れた、美しい自然の中で、アカデミー・ハウスが建設された。社会が直面する問題にキリスト教の立場から果敢に挑戦するために、日常生活や職場から離れた静かな環境が必要とされたのだ。この理念を踏襲して、日本では最初、大磯にアカデミー・ハウスが設立された。関西では京都の修学院離宮近くの風光明媚な場所が選ばれた。その鄙びた付近では、牛乳や新聞の配達さえなかったという。しかし、それは、当初の参加者や顧客から高く評価されていた。最近になって、アカデミーは遠距離で、交通の便が悪いなどの声が聞こえるようになった。時代が変わったと思われるのである。

2011年の年頭に当たり、新春の御挨拶を申し上げます。昨年はアカデミー運動に物心両面から御支援、御協力を賜り衷心より感謝いたします。

パでは労働時間の短縮化に伴い、勤めているほとんどの人にとつて週末は金曜日の昼に始まる。戦後最初の30年間アカデミーの参加者は仕事を休まなければならなかった。勤務時間がはるかに長い日本ではこの形式を踏襲することは不可能に近かった。2泊3日ではなく、せいぜい1泊2日の



日本クリスチャン・アカデミー理事長 シュペネマン・クラウス

アカデミー運動における時間と空間

わったようだ。それには、勿論様々な要因があるだろう。一つの原因は科学技術の発達による生活様式の変化が挙げられるだろう。マックス・ウェーバーが「資本主義の精神」と呼んだ経済合理性の追求という生活様式が一般化し、時間をできるだけ合理的に用い、効率的に業績を上げる方がのんびりと真理を追求するよりも重要であるという風潮である。そこにアカデミーは今立たされ、当初の理念から遠ざかった時間と空間の問題に對峙している

ターゲットのパターンになったのだ。最近になると、1泊2日のプログラムの実施も困難になり、以前は例外的であった半日の講演が主流となった。アカデミーの理念は対話と出会いの場所と言ふよりもむしろ、講演と質疑応答を提供する運動にすり替

昼から始まり、日曜日の午後に終了する形式がとられていた。その背景にはアカデミーの理念である対話と出会いの精神がある。参加者は時間をかけて、じっくりお互いを知り、信頼関係を築くことが対話には必要条件とされているからである。最近、ヨーロッパ

一方、遺伝子解読を果たし、人工多能性細胞の研究等が紙上を賑わす時代である。深海から宇宙の他の天体に至るまで研究の分野を広げ、あたかも万能人類が出現した観がある。今でもある。他方、戦争ばかりか、人間同士の小さな争いさえ制止出来ないという矛盾した状況下にある。環境、医療、健康、教育、生命科学技術問題など際限なく問口を拡げている。その混沌たる現代からアカデミーは眼をそらすことが出来ない。むしろ、アカデミーの原点へ立ち戻り、対話と出会いの条件であるアカデミーの空間と時間を見直しながら進んでいかなければならない。

2011年も、私たちはアカデミー号という蒸気機関車を走らせなければならぬ。その燃料は対話と出会いの精神である。今は困難な大地の上を走っていても、停滞や逡巡は許されない。小さな個人も人間らしく生きられる社会実現を夢見つつ、新しい未来に向かつて前進しよう。

（同志社大学名誉教授）

プログラム案内

◆関東活動センター

■アカデミー新年のつどい
第1部 講演 11時～正午
「ことばを共に聴きながら～45年の牧師人生を省みて」
講師：上林順一郎さん（日本基督教団吾妻教会牧師・関東運営委員長）
第2部 懇親会 正午～14時
日時：2011年1月15日（土）
会場：日本キリスト教会館4階
参加費：3,000円
（第1部のみ1,000円）

■宗教対話プログラム
「聖書に見る女性の穢れと浄め」
講師：絹川久子さん（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター）
応答者：戸澤葉子さん（正蓮寺住職）
日時：2011年2月26日（土）
14:00～17:00
会場：日本キリスト教会館6階
参加費：1,000円（賛助会員900円/学生500円）

クリスチャンアカデミー ホームページ
財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.academy-kansai.com>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本クリスチャンアカデミー
理事長 シュペネマン・クラウス
本部事務局/関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
Tel (03) 3207-6198
Fax (03) 3207-2478
本部事務局
E-mail:nca@academy-tokyo.com
関東活動センター
E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹の内町23
Tel (075) 711-2115
Fax (075) 701-5256
関西セミナーハウス
E-mail:info@academy-kansai.com
関西セミナーハウス活動センター
E-mail:office@academy-kansai.org

東西南北

杉瀬喜與子さん
2010年11月30日、84年の生涯を終えて永眠されました。杉瀬さんは1963年、当時の修学院ハウスに就職し、30年以上に亘って関西セミナーハウスの事務職員として、関西におけるアカデミー運動のために幅広く貢献されました。会計、事務、プログラムの準備を担当し、関西セミナーハウスの運営全般を担って下さいました。竹中正夫先生、村山盛教所長と共に関西セミナーハウス設立時代の中心的存在でした。

アルフレッド・シュミット博士
2010年2月、98歳で永眠されました。シュミット博士は、1957年にドイツのアカデミーから派遣され、1967年まで、主に関東でのアカデミー設立に尽力されました。シュミット博士のご尽力により、ドイツ人のフォクト弁護士が自身の別荘をアカデミーに寄贈し、大磯アカデミーハウスが建設されました。

■第3回神学生交流プログラム
講師：加藤常昭さん（日本基督教団引退教師「説教塾」主宰）
校長：関田寛雄さん（日本基督教団神奈川教区巡回教師・青山学院大学名誉教授）
日時：2011年3月23日（水）～3月25日（金）
会場：鎌倉黙想の家
参加対象者：神学校から推薦を受けた神学生

◆関西セミナーハウス活動センター
■お茶とキリスト教研究会
第3回「禁制となったキリスト教はどんな弾圧を受け、どのように信仰を守っていったのか。お茶は彼らに特別な関わりがあったのか～京のキリシタン史跡に思いを巡らせて～」
講師：杉野榮さん（日本バプテスト連盟京都洛西教会牧師）
日時：2011年2月11日（金・祝）
13:30～17:00
参加費：2,000円（抹茶代含む）

■修学院フォーラム「いのちを考える」
第4回「認知症の理解—その治療、看護、介護」
講師：中島健二さん（京都府立医科大学名誉教授）
日時：2011年2月26日（土）
13:30～17:30
参加費：2,000円、学生500円

賛助会費・寄付金報告

2010年11月1日～30日
(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費	武政 志郎	5,000
	増田 琴	5,000
第3回神学生交流プログラム	飯田 義雄	5,000
	関田 寛雄	5,000
	中西 綾子	5,000
	木岡 毅	5,000
	千葉 拓司	10,000
	木下 庸子	10,000
	横浜 雙葉中学・高等学校	10,000
	藤野 冷子	5,000
	竹内 東光	5,000
	鈴木 百合子	5,000
	桃井 明子	5,000
	青藤 洋子	3,000
	竹中 百合子	5,000
	斉藤 宏	5,000
	小久保 正	10,000
	飯田 庸子	3,000
	橋口 仁	2,000
	椿 邦良	10,000

小泉 純子	5,000	
高田 照一	5,000	
島田 恒	10,000	
山本 美保	5,000	
吉田 豊	5,000	
萩原 好子	5,000	
平野 正	10,000	
◆関西セミナーハウス活動センター		
賛助会費	井上 勇一	5,000
	榎本 栄次	5,000
	日本基督教団京都養教会	
	八田 一郎	5,000
	真鍋 裕子	5,000
	戸塚 保之	3,000
	柳井 繁彌	5,000
	角 多平	5,000
◆関西セミナーハウス		
寄付	働エーザイ	400,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。



関西セミナーハウス もみじまつり 2010

ご寄付をいただいた皆様 (敬称略)

- | | |
|-------------|-----------|
| 安住 宗住 | 塚本 誠一 |
| 荒本 宗玲 | 都木 弘子 |
| 飯田 義雄 | 中上 卯一郎 |
| 五十嵐 君代 | 奈倉 道隆 |
| 井上 勇一 | 西川 和江 |
| 上野 宗幸 | 西村 久代 |
| 榎本 栄次 | 白子 宗令 |
| 大下 道 | 橋野 太一・圭子 |
| 北野 静香 | 林 律 |
| 喜多村 やよい | 平田 哲 |
| 越田 宗紀 | 平林 喜博 |
| 小林 哲夫 | (株)藤木工務店 |
| 柴橋商会(株)京都支店 | 松原 千里 |
| 修光学園 | 松村 正寛・直子 |
| シュベネマン クラウス | 松本 圭子 |
| 白方 誠彌 | (株)三原工務店 |
| 税理士法人トーマツ | 横野 朝彦 |
| 竹中 百合子 | 渡邊 博介・美寿子 |
| 立石 嘉子 | |

寄付金：220,000円

感謝を持ってご報告いたします。

んの都合がつかず、計画から外さなければならなかったことです。今ひとつ、お琴の千葉先生から「今年で最後にして欲しい」とのお申し出を受けたことでした。先生がお年を取られたからということでしたが、長年ご奉仕して下さったことに感謝すると共に、残念な気持ちでした。これら

作らなければならぬと考えていきましたが、森口前館長の妹君がお琴の先生であられるので「如何でしょうか」と協力をお願いしましたところ、快く引き受けてくださり、来年以降も伝統のスタイルを守ることが出来ることになりました。誠にセミナーハウスは人に恵まれているところ

昔職員であられた方々が、前日から泊りがけでかけ参じ

てくださり、セミナーハウスの同窓会が行われているようでもありました。セミナーハウスの「もみじまつり」ということですから、運営委員も経営委員も旧職員も関係者みんなが集まって準備から片づけまでのお祭りになると素敵だナーと思えました。セミナーハウスの財産は人ですからね。年々参加者が増えてゆく「もみじまつり」になりま

関西セミナーハウス活動センター

「もみじまつり 2010」

日時 2010年11月23日(火・祝)
場所 関西セミナーハウス

恒例の、「もみじまつり」が開催されました。前日は雨、しかし当日は日本晴れの晴天になったのであります。やはり禿げ男の力か、いや晴れ男でした。今年は10月の末まで暑い日が続き、11月に入って突然例年以上の寒波が襲ってきたので、紅葉は過去30年の内今年ほど綺麗な紅葉はないといわれるほどの美しい紅葉となりました。当日は、568人のご来客があり、セミナーハウスの関係者46人を加えると約610名で「もみじまつり」を楽しむことが出来ました。

お茶の北風宗照先生、藤井宗恵先生、裏千家一宇会のみなさまのご奉仕による恒例のお茶席、お琴の千葉由紀子先生とお弟子さんの演奏、リコーダー演奏者の神谷徹先生



特に、神谷徹先生のストロークコンサートは子供たちも大喜びで、大人の中にも涙を流して喜んでおられる人がおられるほど、感動的でした。ジュースを飲む時に使っているストローが先生の手に掛かると楽器になって、しかもシャボン玉が出てくるような仕掛けのある楽器になるのですから驚きと感動を与えました。その場でニンジンに細工をして楽器にして演奏された時には、感動の拍手が起りました。世の中にはいろんな音楽家がおられるものですね。

今年の美術部門は、セミナーハウス所蔵のアジア美術作品の展示をいたしました。故竹中正夫先生が収集して下さった作品やアジアキリスト教美術協会からお預かりしている作品などを展示しました。職員の中井博義さんが裏の竹を使って絵を掛ける構築物をアゴラホールの真ん中に作ってくださり、それがまた素晴らしい、絵よりも感動したと言う人もおられるほどでした。セミナーハウスは才能に恵まれた技能者が多いのです。残念なことは、能が学生さ

謹賀新年

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

財団法人日本クリスチャンアカデミー

理事長	シユベネマン	クラウス
常任理事	上林順一郎	評議員長
	小久保 正	市川 邦雄
	中村 信博	入 治彦
理事	横野 朝彦	岩崎 裕保
	戒能 信生	金山 顕子
	島田 恒	神崎 清一
	増田 琴	木村 恵子
	松本 敏之	古賀 博
	飯島 隆輔	小原 克博
	飯田 義雄	武田 利邦
		中井 博雅
		平田 義
		(五十音順)
関東活動センター		
関西セミナーハウス活動センター	所長	上林順一郎
	関西運営委員長	小久保 正
	所長	春名 康範
関西セミナーハウス	経営委員長	中井 博雅
	館長	小泉 達彦
本部事務局	事務局長(兼任)	薛 恩 峰
	事務局次長	武藤 高司